

# 令和3年度諸富町農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

## 1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当地域は、昭和7年から10年にかけて実施された「耕地整理事業」や昭和57年から平成4年にかけて実施された「県営圃場整備事業」により整備された圃場を活用し、土地利用型農業である米・麦、大豆の作付けを中心に、いちごやアスパラガス等の施設園芸作物も生産している。

しかしながら、米・麦の価格低迷が続いていることから、園芸作物の作付拡大や加工・業務用向けの契約生産の拡大が必要となっている。

平成27年5月に設立された「農事組合法人もろどみ」は、10の旧集落営農組合が統合し、担い手不足の受け皿として発足した法人であり、諸富町農用地の約6割を担っており、また認定農業者を含めると当地区の9割以上を担っている。

今後、当再生協議会は、法人や認定農業者の健全育成のために必要な検討を行い、継続的な支援と推進を図って行く必要がある。

## 2 高収益作物の導入や転作作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

平坦な圃場を活用し、水稻、大豆、麦や施設野菜・露地野菜を中心とした作物を作付している。

また、水田農業経営の安定を図り、食料自給率向上と農業の多面的機能の維持を目的に農事組合法人もろどみや認定農業者への農地の集積を図り、農業機械の共同化も推進してきた。

今後は計画的なブロックローテーションによる団地化している大豆のように、大麦や小麦についても作業の効率化等のため検討していくとともに、産地交付金を活用して露地野菜や施設野菜の拡大も推進する。

## 3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

平坦な圃場を活用し、水田において水稻、大豆、麦や施設野菜・露地野菜を中心とした作物を作付けしており、利用率も高い。

転作確認で水田の利用状況を確認しており、今後、畑地化を希望される農家があれば、現地確認を行い協議会で検討する。

## 4 作物ごとの取組方針等

### (1) 主食用米

当地域においては、平成29年産まで生産数量目標に即した作付けの推進を図っており、平成30年産からは国の需給見通しを基に「生産のめやす」に即した作付けの推進を図っており、令和2年産の作付け実績については、「夢しずく」が97ha、「さがびより」が71ha、「ヒヨクモチ」が153haとなっている。

販売面では県産米の実需からの引き合いに応え、一定程度のロットを確保することも重要になってくることから、今後も需要に応じた生産を基本としつつ、安全・安心で良質な佐賀県のブランド米である「夢しずく」や「さがびより」、もち米の「ヒヨクモチ」の安定的な生産・供給を維持し、多様な消費者ニーズに応えられる産地となるような生産体制づくりを進める。

## (2) 非主食用米

### ア 飼料用米

現在のところ作付け実績はないものの、主食用米の需要が減少していることから、転作の一環として大豆だけでなく非主食用米への転換も状況を見ながら検討していくこととする。

### イ WCS 用稲

大豆を転作作物の中心に位置づけているため、大豆のブロックローテーションを妨げない作付体系、かつ、大幅な過剰転作とならない範囲内での作付けを基本とし、畜産農家の需要に応じた生産を進める。

また、近隣圃場へ影響を出さないよう肥培管理及び防除等の栽培管理を徹底し、品質安定を図る。

今後、資源循環の取組を希望する農家があれば、協議会で支援について検討する。

## (3) 麦、大豆、飼料作物

### ア 麦

今後とも用途に応じた良質で均質な麦の安定供給と生産体制の強化を図る。

中でも、実需者ニーズが高い小麦の面積増加を図るため、麦種転換を進めながら麦作を振興するため、水田活用の直接支払交付金の戦略作物助成対象作物の二毛作として作付けされた麦については、産地交付金から二毛作の支援を行う。さらに、環境に配慮した農業を推進するため、産地交付金を活用して、麦わらの有効活用（すき込み、園芸利用、畜産利用等）を推進するとともに、生産性（地力）の向上を図る。

### イ 大豆

主食用米の需要減が見込まれる中、大豆を転作作物の中心作物に位置づけ、産地交付金を活用しながらブロックローテーションによる連作障害の解消及び作業効率化や団地化栽培による生産量の高位安定化を進め、あわせて病虫害の適期防除対策の徹底、産地交付金を活用し天候による影響を緩和させるため、不耕起播種技術、額縁明渠技術の普及促進に支援を行い、作業の効率化、品質安定、生産量の増加を図る。

### ウ 飼料作物

自家消費等としての作付けは行われているが、転作の一環として大豆だけでなく、需要に応じた生産を検討していくこととする。

## (4) 高収益作物

土壌条件や気象条件を活かし、イチゴ・アスパラガス・メロン等の施設野菜や玉ねぎを中心とした露地野菜等の産地を形成しているが、農家の高齢化などもあり重量野菜の作付け面積が緩やかに減少している。今後の農業経営発展を図る中で、野菜の占める役割は大きく期待がもてることから、産地交付金を活用し、園芸作物の作付けの推進を図る。

## 5 作物ごとの作付予定面積等

作物	前年度作付面積 (ha)	当年度の作付予定面積 (ha)	令和5年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	321.0	315.3	310.0
WCS用稲	0.0	3.0	3.0
麦	462.6	462.6	462.6
大豆	163.5	170.6	174.5
飼料作物	2.0	2.0	2.0
・子実用とうもろこし	0.0	0.0	0.0
高収益作物	17.48	18.2	19.45
・施設野菜	8.5	8.7	9.0
・オクラ	0.28	0.4	0.45
・露地野菜（基幹作）	2.5	2.6	3.0
・露地野菜（二毛作）	6.2	6.5	7.0
畑地化	0.0	0.0	0.1

## 6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	目標値 (R5 年度)	
				前年度 (実績)	目標値 (R5 年度)
1	大豆	作付圃場団地化助成 (基幹・二毛作)	団地化率	98.3%	98.5%
2 3	麦	麦二毛作助成(残額 払・実績払)(二毛作)	麦二毛作面積	461.5ha	461.6ha
			土地利用率	194.9%	195.0%
4	イチゴ、アスパラ ガス、メロン、唐 豆、唐辛子 等	施設園芸作物助成 (基幹)	施設園芸作物 作付面積	8.5ha	9.0ha
5	オクラ	地域振興作物助成 (基幹)	オクラ栽培面積	0.28ha	0.45ha
6	レンコン、タマネ ギ、キャベツ、カ ボチャ、唐豆 等	露地園芸作物助成 (基幹)	露地園芸作物 作付面積	2.5ha	3.0ha
7	タマネギ、ソラマ メ、キャベツ、カ ボチャ、唐豆 等	露地園芸作物助成 (二毛作)	露地園芸作物 作付面積	6.2ha	7.0ha
8	麦	麦わら有効活用助成 (基幹・二毛作)	麦作付面積	462.6ha	462.6ha
			有効活用率	100.0%	100.0%
9	大豆	大豆不耕起播種助成 (基幹・二毛作)	取組む農業者数	1人	2人
			取組面積	5.3ha	5.5ha
10	大豆	額縁明渠助成 (基幹・二毛作)	取組む農業者数	1人	3人
			取組面積	7.6ha	12.0ha